

九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2025



所 属： 人文学部 人文学科 児童教育専攻

名 前： 犬童 昭久

作成日：2025 年 4 月 1 日

教員氏名：犬童 昭久

所属：人文学部 人文学科 児童教育専攻

1. はじめに

本ポートフォリオは、大学教育において、教員自身の授業や教育活動への取り組みへの評価が求められるなかにあつて、教育活動全般を振り返り今後の授業、教育活動への取り組みを推進することを目的とする。

2. 教育の責任

専門は造形教育・図工美術教育ならびに教員養成を中心として公立学校、県立美術館勤務の現場体験も活かしながら本学の教育に携わっている。児童教育専攻所属教員として従事し、上述に加え、幼児・保育に関する造形関連の内容も担当している。教育現場において活用可能で実践的な内容を教授できるよう、教育現場の状況や社会に求められるニーズも探りながら、自身の専門分野の研究についても追究しているところである。

(1) 授業科目の担当

科目名	開講年度時期	履修者数	備考
美術史	2 年生前期	約 40 名	共通教育選択
キャリア・デザインⅠ	2 年生後期	約 50 名	共通教育選択(複数名で担当)
キャリア・デザインⅡ	3 年生前期	約 50 名	共通教育選択(複数名で担当)
職場体験学修(インターンシップ・キャリア教育)	3 年生前・後期	約 50 名	共通教育選択(複数名で担当)
職場体験学修(小学校)	2 年生後期	約 40 名	共通教育選択(複数名で担当)
ビジネスコミュニケーション	2 年生前期	約 70 名	共通教育選択(複数名で担当)
図画工作	1 年生後期	約 40 名	専門選択(講義・演習)
特別研究	3 年生後期	約 6 名	専門必修(演習)
卒業研究	4 年生通年	約 6 名	専門必修(演習)
保育内容(表現Ⅱ)	1 年生後期	約 30 名	専門選択(講義・演習)
図画工作科教育法	1 年生前期	約 40 名	専門必修(講義・演

			習)
保育内容の理解と方法 Ⅰ・Ⅱ	年生前期	約 30 名	専門選択（講義・演習）（複数名で担当）
小学校教育実習Ⅰ（事前・事後指導）	3 年生通年	約 40 名	専門選択（講義・演習）（複数名で担当）
小学校教育実習Ⅱ	3 年生後期	約 40 名	専門選択（複数名で担当）
子どもと表現Ⅱ	1 年生前期	約 30 名	専専門必修（講義）

教育を担当する科目は児童教育専攻必修科目、選択科目である。そのうち、小学校教員免許に関わる科目を主に担当している。

■ 主要担当科目

図画工作

本講義では身近な素材や材料（紙や着色用具など）を用いて、基礎的な実技演習を行い、図画工作が子どもたちにとって、より意味のある充実した学習になるように理解を深めることを目標としている。

図画工作科教育法

小学校図画工作科の目標や内容及び教科の特性への理解を深めるとともに演習を通して図画工作教育はいかにあるべきかを学ぶ。そのため、小学校学習指導要領改訂の趣旨や教科の目標・内容について理解を深め、アクティブ・ラーニングの視点から小学校の教科書教材の分析を通して、情報機器の適切な活用を図りながら図画工作科の授業の在り方を検討することを内容としている。

保育内容（表現Ⅱ）

幼児の発達を「表現」領域の観点から捉え、造形表現活動を中心に幼児理解を深めながら保育内容について学ぶ。そのため、アクティブ・ラーニングの視点から情報機器の適切な活用も図りながら演習を行い、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について総合的に理解し、幼児の発達に即した具体的な指導を想定した保育構想や方法を身に付けることを目標としている。

保育内容の方法と理解Ⅰ・Ⅱ

子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と、保育所保育指針に示される保育の内容を踏まえて、子どもの生活と遊びにおける体験(※)と保育の環境を捉え、以下の知識・技術を学ぶ。

1. 子どもの生活と遊びにおける他者（保育士等や他の子ども）との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識及び技術
2. 子どもの生活や遊びにおいてイメージを豊かにし、感性を養うための環境の構成と保育の展開に必要な知識及び技術
3. 子どもの生活と遊びにおける様々な遊具や用具、素材や教材等の特性の理解と、それらの活用や作成に必要な知識及び技術

※子どもの生活と遊びにおける体験の例

- ①見立てやごっこ遊び、劇遊び、運動遊び等における体験
- ②身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ体験
- ③身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ体験
- ④子ども自らが児童文化財（絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等）に親しむ体験

学部での教育以外の教育実践は以下のようなものがある。

■ 非常勤講師・研修等

熊本学園大学（造形 2023 年度）

阿蘇学会 理事 学会誌編集委員長（2024～）

和文化教育学会 理事 熊本支部長（2021～）

NP0 法人「熊本マンガミュージアムプロジェクト」（2020～）

芦北町立星野富弘美術館専門委員（2018～）

その他に幼児・児童の「創造性」に関する研究等を共同研究者と共に行っている。

(2) 教育組織運営

教育実施に際しての学内での役割や職務としては、2023 年から就職支援委員長として学生のキャリア支援等に従事している。その他、学内における複数以上の各種委員会に携わっている。

3. 教育の理念

(1) 理念1 教育者としての生き方を考える

児童・生徒の教育に携わる者としては、「どの子ども育つ、伸びたがっている」という基本的な教育的愛情を持ちながら、子どもたちを認め、褒め、励まし、伸ばすと共に、それぞれの子どもの持ち味を生かしながら磨くという姿勢が大切である。教員養成に当たっては、教員として子どもたちの前に立つ者として、また社会人として社会から求められる教師像を踏まえながら、あくまで子どもたちの手本としての教師の在り方を求めるべく教育活動を展開している。

(2) 理念2 造形・美術を通した子どもの育成

造形・美術教育においては、豊かな情操を培うための大きな基盤のひとつとして捉え、造形・美術の楽しさや豊かさ、美しさ、味わい深さを子どもたちが享受し、生活や人生をより豊かにできるよう、造形的な見方の視点や美術への愛好心を育てる観点から造形・美術への興味・関心・意欲を喚起する授業展開を工夫しながら実践している。

(3) 理念3 教育課題を見据えた教師の在り方

現代における教育課題は、いじめ・不登校をはじめとして、規範意識、自然体験の不足、教育格差、食育、学力、体力低下等、枚挙にいとまがないが、それらの問題解決のためには、その場しのぎの対症療法ではなく、教育を、歴史的視点、世界的視野で俯瞰的に捉えることが大切である。さらに、学校、家庭、社会が一体となって次世代育成に当たることが重要である。教育に携わる多方面からの情報を受信しながら、今、何ができるのかを学生と共に探っていきたい。

4. 教育の方法

教育理念との関係では以下の点を重視した教育方法を取っている。

(1) 造形・美術教育で育てる力

すべての教育活動は究極的に人格を高めることにつながるものである。児童教育専攻の場合は図画工作、図画工作科教育法等、保育・幼児教育専攻の場合は保育内容（表現Ⅱ）、保育内容の理解と方法を通して、系統的、総合的な造形教育、図工美術教育の方法を身に付けさせる。また、保育活動や授業の成立には学級経営や生徒指導との関連も欠かせないことから、幼児・児童の発達、学校生活を踏まえ、実践的な授業の構築を図るべく、知識・技能を習得させる。

(2) 教職生活への準備

教職を学ぶ学生は幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教壇に立つことを目指している。教員に求められる資質は様々であるが、熊本県や熊本市の「求められる教師像」を踏まえながら、一般的な教養及び教職の教養、児童・生徒の観察と理解、学級経営の手法、学級経営案、いじめや不登校への対応、児童・生徒、保護者との人間関係、信頼関係の構築等、教育現場で必要とされる対応力の一端について心構えを持たせるべく、可能な範囲で課題についてのレポートや協議、講話を提供している。

5. 教育改善のための努力

(1) 改善努力1 授業評価アンケートと授業改善報告書

各学期の終わりに実施されている授業評価アンケートをもとに、自分の授業内容を振り返り、改善するようにしている。

(2) 改善努力2 各学会や研修会への参加

教育現場の状況や知見を得るために、各学会や研修会に参加している。得た知見は、授業でも還元できるよう取り組んでいる。

(3) 教育内容・方法の工夫

理論と演習（制作）を連動させることで、制作の意味を理解させ、造形活動への興味・関心を高める授業展開を行っている。また、実際の教育現場での言葉かけの実例の紹介や教職員としての資質向上のための資料を提供することを通して、教職における考え方を深める授業展開を行っている。制作後には作品鑑賞の時間を設けると共にポートフォリオ・スケッチブックを作成させ、学生自らが学びの成長の過程を振り返り、次時の学習に活用できるようにしている。また、適宜制作や鑑賞を取り入れて関心・意欲を喚起する授業の組み立てを行うようにしていると共に美術に関わる諸要素の理解が円滑となるよう、具体的な事例を示すことにより関心を高める授業展開を行っている。上記のことを通して、計画に従い授業展開を行うとともに、実際の学校現場での実例や場面を提供し、教員としての資質向上のための資料により考え方を深めべく授業展開を行っている。

6. 教育の成果・評価

(1) 造形教育、図画工作科教育に関する科目：保育内容（表現Ⅱ）、図画工作等

演習中心の授業は学生にとっては充実感があるようであり、評価は平均値を上回っている。演習内容は模擬保育や模擬授業、または実習において活用ができたといった感想が多い。

(2) 教職に関する科目：小学校教育実習Ⅰ等

小学校教育実習Ⅰは3年次の前期に開講され、複数の教員で担当している。教育実習の事前指導として1名の教師に6名程度の学生で各グループに分かれ、模擬授業や指導案作成指導を行なっている。実習後の教職関連の授業では、教育実習を経験していることから、学級経営に関する討論やロールプレイ、また、赴任前研修会等を組み入れることで、現場に立つ者としての実践的な活動を取り入れている。そのような取り組みの成果として学生の評価も平均を上回っている。

7. 今後の教育に関する課題と目標

保育内容（表現Ⅱ）、保育内容の理解と方法Ⅰ・Ⅱ、図画工作、図画工作科教育法等での演習を行う際の課題として、本学には学生の制作した作品の保管場所や、演習に使用する道具が置けるような十分な置き場がないことがあげられる。毎回、限られた時間で準備と後片付けを行わなければならない、よほど計画的に取り組まなければ実施が滞ってしまう。また、せっかく学生が作成した作品も掲示する場所の確保が難しい状況であるため、そのことが学生のモチベーションの低下につながることも懸念している。現在、作成した作品は近隣の病院へ掲示ボランティアも兼ね、作品を贈呈することを行うなどの工夫をしているところである。学生が意欲的に授業に参加できるように計画的に取り組むと共に今後も知恵を出しながら改善を続けていきたい。

また、小学校教育実習Ⅰ等の教職科目は現在、複数名の教員で担当しているが、学生一人ひとりへのきめ細やかな指導を行うためには各々の教員の連携と協力が不可欠である。今後、教育現場では多方面からのアプローチが必要とされ、レジリエンスや柔軟性が求められる。そのため教員が各々の専門性を活かしながら一丸となり、学生への指導・支援を行うことは今後一層必要であると考え。学生が十分に学修できるよう尽力をしていきたいと考える。

【根拠資料】

- (1) 担当科目シラバス
- (2) 授業評価アンケート結果